

令和 8 年 8 月 14 日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿

国立がん研究センター中央病院
医療安全外部監査委員会
委員長 山 本 修 一

令和 8 年度第 1 回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時：令和 8 年 6 月 30 日(火) 14 時 00 分～16 時 10 分 管理棟 1 階 第 1 会議室

2. 監査委員

独立行政法人 地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部	滝沢 牧子	部長
順天堂大学医学部附属順天堂医院 医療安全機能管理室	山本 宗孝	副室長(WEB 参加)
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士
一般社団法人 CSR プロジェクト	桜井 なおみ	代表理事

3. 令和 7 年度第 2 回医療安全外部監査委員会監査結果に対する対応

- 1) 臨床検査部門で実施している緊急事態発生時の対応訓練について、併存症を持つ患者も多く、各検査室はクローズドであるため、各検査室で発生しうる急変を想定したシミュレーションを実施し、日々注意喚起することが重要である。安全な検査体制構築のため、ご検討いただきたい。

<対応>

臨床検査部では、毎年異なるシチュエーションでの患者急変時対応のシミュレーションを実施している。各検査室での緊急時対応のフローは以前より作成されており、各検査室には掲示し手順書にも織り込み済みである。今後も安全な検査体制構築のため、様々なシチュエーションをもとにしたシミュレーションを実施していく。

事務局及び関係部署から前回指摘事項への進捗状況が報告され、改善に向けた取組状況を確認した。

4. 令和 8 年度第 1 回医療安全外部監査委員会 監査結果

- 1) 医療法が改正され、関係する医療事故防止対策マニュアルの改訂が行われていることを確認した。その中でインシデントの定義が不明瞭であるため、明らかにして職員へ周知することを検討いただきたい。
- 2) 2 識別子確認は重要だが、徐々に高齢化が進むと適切な実施が困難となる可能性もある。高齢患者への対応も見据えた更なる安全対策を検討いただきたい。

- 3) 患者対応及び迷惑行為対策については、職員を守る視点を維持しつつ、患者・家族に理解されやすい表現や周知方法について継続的に検討いただきたい。
- 4) 感染対策における定期ラウンドによる改善確認やPDCAサイクルの継続を評価する。施設環境の改善についても引き続き取り組んでいただきたい。
- 5) 医薬品安全管理責任者が法律上把握を求められている、適応外使用の医薬品の中には、禁忌や投与経路の変更など様々なリスクが存在する。高リスクと低リスクが混在する場合、リスクの層別化をチェックリストやフローチャートなどにより整備することを検討していただきたい。
- 6) 処方間違いあるいはアラートを突破して処方するなどの事例を防ぐことは、薬剤が増えていく中で薬剤師の重要な使命といえる。疑義照会への取り組みについて、数字で表すと指標が把握できるため検討していただきたい。
- 7) 医療機器、医薬品、医療放射線安全等の管理体制について、各責任者へ確実に情報が集約される仕組み及び継続的なモニタリング体制の強化をお願いする。

5. 総評

前回の監査結果に対し、各部門が計画的かつ継続的に改善活動へ取り組んでいることを確認した。特に、患者誤認防止、転倒転落対策、感染対策、高難度新規医療技術の管理及び医薬品・医療機器安全管理について、組織的な活動が推進されていることを評価する。

また、委員会ではインシデント、有害事象及び医療事故等の定義の整理、患者対応における職員保護と患者理解の両立、患者確認手順の更なる強化など、多くの有益な提言がなされた。特定機能病院として我が国の高度医療を牽引する立場から、これらの提言を踏まえ、より安全で質の高い医療の提供に引き続き努められることを期待する。

以 上